



にしざわ なおや
西澤 直弥さん

●下彦間小学校 6年
**あこがれの
プロスキーヤーに**

ぼくの将来の夢は、プロスキーヤーになって世界中の大会に出場し、活やくすることです。

ぼくは、幼稚園の年中のときに、初めてスキーをしました。それからすごくスキーが楽しくなって、毎年スキーに行っています。お父さんもスキーが大好きで、お父さんといっしょにスキーに出かけたり、家族で行ったりしています。お父さんはスキーが上手で、すべり方をよく教えてくれます。お父さんから教えてもらったことでスキーがどんどん好きになり、上達してきました。

ぼくはこれからも大好きなスキーを練習して、まずはお父さんよりも上手になりたいです。そして、さらに練習することで、スキーの技術を高め、大会に出場できるようにになりたいです。そしていつかあこがれのプロスキーヤーになって活やくしたいです。夢がかなうようがんばっていきたいです。



市長からの

メッセージ



春を告げる桜の便りもあちこちから聞こえてきます。

3月の市議会において、平成26年度予算をご承認いただきました。一般会計予算506億6千万円のほか、各特別会計、公営企業会計などです。

昨年度に引き続き積極型予算となり、合併以降最大の予算規模となりました。

今年度は、東日本大震災の教訓を活かし、新庁舎建設や消防庁舎の着工をはじめとする「市民の安全・安心の確保」のまるを活用した積極的なシティブロモーション、並びに将来を担う世代の雇用確保、生活基盤の安定のための産業団地の造成や企業誘致を推進する「魅力と活力の向上」、夢や希望、感動、勇気を与えてくれるスポーツの力をまちづくりに活かす「スポーツ立市の推進」に特に力を注ぐ内容といえました。

今年度は第一次総合計画の総仕上げ「後期基本計画」の初年度でもあり、合併10周年という節目の年でございます。さらなる本市の飛躍を目指し、皆さんと力を合わせて全力で取り組んでまいり所存でございます。

今月1日から市営バス「さーのつて号」犬伏線が4つの系統で運行を開始いたしました。ぜひご利用ください。

4月は入学式、入社式など夢や希望に向かって新たなスタートを切る季節でもあります。皆さんには、常に前を向いて進んでいただきたいと思えます。

花冷えの季節は体調を崩しやすくなります。市民の皆さんにはどうぞ、ご自愛ください。

岡部 正英

今回の表紙「河津桜」 3月19日撮影 孫太郎公園（伊賀町）



2月には大雪が降るなど、寒い日々が続いた今年の春先ですが、3月中旬を過ぎて、やっと春らしい暖かさが出てきました。

4月には桜が開花し各地でみられることと思います。城山公園、秋山川の桜堤（堀米町）、旗川緑地公園や嘉多山公園など名所もあります。桜が彩る春をお楽しみください。

キラリ★ 話題の「ひと」

ひょうどう 兵藤 ヤスさん (浅沼町)

○プロフィール

- ・佐野市郷土博物館展示解説ボランティアを発足以来、継続して務める
- ・栃木県男女共同参画地域推進委員



育て、未来の正造！

市内の小学生は在学中に3回ほど郷土博物館に見学にいき、博物館には毎年27校・延べ3千人の小学生が来館します。3年生は「くらしのうつりかわり」、4年生は「田中正造」、6年生は「佐野市の源流をたずねて」をテーマに佐野市のことを学びます。

郷土博物館からの要請を受け、小学生に展示物を解説するボランティアの会が平成2年に発足しました。現在、メンバーは17人で、栃木県女性教育推進連絡協議会佐野支部の会員を中心に構成され、解説者自らも常に研修を続けています。

兵藤さんは初回から24年間、ずっとこの活動を続けています。「社会科学習の一環として位置づけられており、これからの佐野市を担う小学生に説明するので、史実に基づき正確に解説する役目があります」と言います。

皆さんはご存じでしょうか？佐野市に人が住み始めたのは3万年以上も前で、現在のイオンモール佐野新都市の北側駐車場付近、上林遺跡から裏づけされるそうです。長年佐野市に住む私たちも知



小学生に説明する兵藤さん

らないことがたくさんあります。

昨年は、田中正造没後100年の年でした。佐野は正造翁が生まれ守ってきた土地です。兵藤さんは「正造の功績を学び、正造の生き方に刺激を受けて、自分の生き方に反映する大人になって欲しい。そんな子どもたちを増やしていきたい」と、この地で育つ子どもたちに大きな期待を持っていました。現在のご自分を「ここからはじまり」と位置づけ、「82歳の今でも、こうした活動に関わっていることに喜びを感じています。展示解説ボランティアをやっているというより、若い人を育て、自分も育てられていると感じます」と子どもたちの成長に関われる幸せを嬉しそうに話してくださいました。

未来の正造に会えるかもしれない展示解説ボランティアを、ぜひあなたもやってみませんか？

(市民記者 永倉文子)

嫌われ者につける方言



なま 怠け者やけん坊といわれる人の性格や行動から、昔の人はそれにふさわしい方言のあだ名をつけていました。ろくに仕事をせずに食べることだけは人一倍、これといって身に付けた芸もなければ能力もなく、毎日をのらりくらりと過ごしている怠け者を、ゴクツツプシといいます。

「マインチ(毎日)何もしないで、遊び暮らしているゴクツツプシが今日もその辺をホツツキマーツ(歩き回っ)ていたっけ」

ゴクツツプシは「穀潰し」の変化後、働かずに穀(米)を食いつぶすが元の意です。

人に付きまとい、ただで飲んだり食べたりする者をアブラムシといいます。農作物に寄生する害虫「油虫」を、人になぞらえて言うようになりました。

「奴はアブラムシだから、ダーレ(誰)もヨツツカネー(寄り付かない)んだってガネ」

身勝手で言うことをきかない愚か者を、ヨトサレ、またはヨトサレモンといいます。この語は、知恵の足りない者「与太」から出たことばです。

「言うことはイーカラカン(でたらめ)だし、仕事はミシミテ(まじめに)ヤンネし、あんなヨトサレモンとは付き合えネーよ」

サブケノカミは、本来邪魔をする神のことでしたが、性質や言動が普通でない嫌われ者をいうようになりました。昭和初め頃まで盛んに使われていました。

(市民記者 森下喜一)

